

---

# 死神への招待状

美崎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死神への招待状

### 【Zコード】

Z09591

### 【作者名】

美崎

### 【あらすじ】

いつも暇だったダチョウが出会ったのは、ウサギの首。ダチョウと一緒に暮らしていると、ウサギはある旅行へと招待してくれると言った。死神になる不思議な旅行へと。

## プロローグ

ダチョウは、今日も暇だった。

青い空…ふっかりと浮かぶ雲…風に揺れる草…どれも、見飽きてしまった。

空を見ながら、飽き飽きしながら、ダチョウはため息をついた。  
すると、遠くから青い鳥が一匹、チュンチュンといひひひ飛んでくる。

田が合ひた。ひひひおひで、と囁ひこる。

青い鳥を、ダチョウはゆくつと追いかけた。

離れすぎないように、だけれど、近づき過ぎなによい。

しばらく追いかけると、青い鳥は、上に飛んでしまった。

ダチョウは、青い鳥にあじていかれた。

だけど、ダチョウは楽しそうなものを一つ拾った。

かわいいリボンの付いた、水色のサッカーボールくらいの大きさの箱。

ワクワクしながら、リボンを解く。箱のふたを開ける。

すると、中にはウサギの首が入っていた。

不思議そうにウサギの首を見ていると、目がぎょろりと動いて、目  
が合つた。

真っ赤な目が、ダチョウをしっかりと見ている。

ダチョウは、新しい友達を見つけた。

## 1-\*ダチョウの夢

ダチョウとウサギの首は、出舎つてから一緒に暮らし始めた。

「飯に、お散歩、遊ぶときも、もちろん一緒だつた。

遊んでこると、二つの間にか太陽はどこへと行ったしまつてこる。

だけど、その代わりに小さな小さな星たちが暗い夜に浮かぶ。

そつこづゝ一日の繰り返しだた。ウサギの首とこると、あつとこつ間に星が浮かぶ。

楽しくてしょうがなかつた。

今まで、ずーっと暇だったダチョウは、ウサギの首と出舎つて毎日が楽しくなつた。

今日も、星たちが空に浮かぶ時間になつた。

ダチョウとウサギの首は、遊び疲れてワラの布団の上に寝転ぶ。

「僕ね、一回でここからなつてみたいものがあるんだ

ゆくぐりとダチョウが言つた。

ウサギの首が、ダチョウにじつ語へ。

「何に、なつてみたいの？ ゾウ？ キリン？ ラクダ？」

ダチョウは、恥ずかしいように顔を背けながら小さな小さな声でつぶやいた。

「…ゾウでも、キリンでもない…ヒトになりたいんだ」

「ヒトって言つと、人間？」

ウサギの首は、信じられないよつた顔で言つた。

すると、ダチョウは何も言わずに、「クソ」とつなづいた。

「…それが君の夢か。すごいなあ、具体的な夢があるつて」

ウサギの首が、ゆつくつと口を開じながらつぶやいた。

そして、じつ続けた。

「僕の夢はね、自分の体を取り返すこと

くる」とダチョウが振り向いた。

「君の体は、誰に取られたの？」

「…しない」

ウサギの首は、まるで他人事のように答えた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0959i/>

---

死神への招待状

2010年10月14日16時02分発行